

複言語環境が活かされた個別日本語コースの実践報告
—米国中西部での高等教育レベルの継承語学習者の例—
藤岡典子 (シンシナティ大学)

「複言語主義」とは、個人の中で複数の言語知識や言語体験があり、自分の置かれている状況や相手の関係の中でその知識や体験が柔軟に組み合わせられ、多様なコミュニケーションが築かれ自己形成がなされるという考え方に基づいている (尾関・川上, 2010)。このような環境で空間・言語間・カテゴリー間を移動する (川上, 2009) 学習者には予め決定されたゴールがあるわけではなく、学習者が自身の複数言語能力を自己評価し、自らの言語能力に向き合うことが重要である。本発表では、アメリカで生まれ育ち、家庭内では英語と母親の母語である日本語の2言語が使用され、中学生まで毎週土曜日には日本語補習校に通い、高校・大学では外国語として日本語の学習を続けた学習者の事例を報告する。

先行研究で自己の学習を振り返るリフレクションプロセスは学習者の興味を引き出す支援が可能になるなど肯定的な影響を与えることが示されている (Erickson, et al., 2021)。そして教員は学習者が提出するリフレクションから学習者の知識、技能、理解度、知識応用力を把握することができる (Menekse, 2020)。本発表での対象者が大学で受講した日本語4年目のコースは、コロナウイルス感染症拡大の際に対面から非同期のオンラインの授業形態に変更し、使用教科書は、『上級へのとびら』(岡ほか, 2009)で、無理なく各自で勉強ができるように精選した4課分を1学期間に学習させている。個別学習を支援するために、教員は、各課の終わりに学習者からのリフレクションの回答と学習課題の内容に対するフィードバックを学習管理システムのコメント欄に音声ファイルを入れ、必要であれば利用すべき学習リソースの情報などを記述して送った。また、学期の中間時点で、学期前半の教員からのフィードバックを学期後半の学習に活かせるように半構造化インタビューを実施し、助言を与えた。さらに、自己のアイデンティを認識しながら専門性を活かしたグローバル人材として将来のキャリアの探求を行なうために、作文とプロジェクトの課題に取り組みさせた。このカリキュラムでは、学期初めの作文で、過去の日本語学習を振り返り、将来どのように日本語力を活かしたいかを書かせた。2回目の作文では、教科書を使用して日本のスポーツマン精神について学んだことを基に今後の生き方をどのように変えたいと考えたかを記述させた。そして、最初のプロジェクトの課題では、日本の地理の課を終えた後、専門分野について学ぶために日本で留学やインターンシップをするとしたら、どこに行くか計画を立てさせ、想定される経験について調査させた。次のプロジェクトの課題では、学習者が専門知識を深められるトピックに基づいたアンケート調査を実施させた。

その結果、当学習者は英語で学んでいる専門分野のインターンシップに日本で従事する場合、大学医学部附属病院で心臓と呼吸のリハビリテーションの実習が行なえる可能性を見つけたほか、大学院で専門にする予定の運動生理学に関する心血管運動の認知度について日本語を使用して報告した。さらに、学期末に、将来、心臓リハビリテーションに来院する日本人患者に日本語で話してあげられると記していたことから、内省的な学習活動を通して、日本語力を活用しながら専門的な知識を社会で役立たせられる自己形成をすることができたと言えるであろう。

参考文献

岡まゆみほか (2009) 『上級へのとびら』くろしお出版

- 尾関史・川上郁雄 (2010) 「『移動する子ども』として成長した大学生の複数言語能力に関する語り—自らの言語能力をどう意識し、自己形成するのか」 細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か—ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』 pp. 80-92.
- 川上郁雄 (2009) 「Children Crossing Borders: CCB を考える—子どもにとって日本語は母語か第二言語か継承語か」 JSAA-ICJLE (2009 年度豪州日本研究学会・日本語教育国際大会 ニューサウスウェールズ大会・シドニー大学 (2009 年 7 月 14 日) .
- Erickson, M., Wattiaux, M.A., Marks, D., & Karcher, D. (2021). Brief, written reflections improve interest of introductory animal science undergraduates. *CBE-Life Sciences Education*, 20 (28), 1-11.
- Menekse, M. (2020). The reflection-informed learning and instruction to improve students' academic success in undergraduate classrooms. *The Journal of Experimental Education*, 88 (2), 183-199.